



主な内容

特集——シミュレーションセンター
トピックス——卒業式が挙行されました
募金状況報告
フリーページ——すこやかスポット医学講座No.105
「岩手医科大学高度救命救急センターの役割」
表紙写真：シミュレーション実習（関連記事P.2-5）

特集

シミュレーションセンター

シミュレーター・学習機器・教材の管理、シミュレーション教育の推進や学習の場の提供を目的に、シミュレーションセンターが2019年の附属病院移転を機に整備されました。

本稿では、センターの概要や取り組み、管理している機器を紹介をします。

シミュレーションセンターの概要

学生や医療スタッフが、医療に関するトレーニングを行うためにシミュレーターや各種学習機器・教材を管理・保守・運用する部門であり、2019年の矢巾地区への病院移転を機に整備されました。内丸地区のスキルス・ラボや矢巾地区のクリニカルシミュレーションセンター、附属病院の各科が所有していたシミュレーター・各種学習機器・教材を、医・歯・薬・看護の4学部と附属病院で横断的に使用できるものを中心に集約することで、管理運用の効率化や利便性の向上を図りました。加えて、シミュレーション教育の推進、共通の学習の場を提供することを目的としています。

医療人が診察現場において安全・安心な医療を提供するためには、基本的な技術から専門的な技術・技能を練習できる環境や実際の場面を想定した学習の場が必要です。診療現場に出る前は勿論のこと、診療現場に出てからも継続的な学習が求められます。

岩手医科大学のシミュレーションセンターには患者さんを模したシミュレーション人形や診察・検査・処置として手術のための学習機器・教材が数多く揃えられています。ここで効率的な練習を積み重ねることにより、患者さんの肉体的・精神的負担や、潜在的な危機を最小限に抑え、社会の人々に安全安心な医療を提供することができます。



スタッフ紹介



左から、相澤副センター長、伊藤センター長
眞瀬副センター長、蒲澤事務員
(中央はシミュレーション人形)

スタッフ

センター長	伊藤 智範 教授 (医学教育学講座地域医療学分野)
副センター長	眞瀬 智彦 教授 (救急・災害・総合医学講座災害医学分野) 相澤 純 特任講師 (医学教育学講座医学教育学分野)
事務担当	全学教育企画課医学研修係

シミュレーション教育とは、実際の臨床場面をリアルに再現した状況で、学習者がその経験を振り返り、ディスカッションを通して知識・技術・態度の統合を図ることを目指す教育です。患者さんと学習者双方の倫理と安全を保障した学習環境で、学習者の習熟状況に合わせた繰り返しの学習や評価が可能になっています。

■ 求められているものは？

今、医学教育では、シミュレーターを用いた教育が分野別認証評価でも必須として挙げられており、医療系のアカデミアとして、避けては通れない領域になりました。On the job training だけで賄われていた昭和・平成時代の教育では通用せず、医療安全の面からも、適切なシミュレーション教育が求められています。本学では、これまでシミュレーターを用いた教育文化が必ずしも浸透していたとは言えず、大学として包括的・戦略的ではありませんでした。この横断的に整備されたシミュレーションセンターを上手に活用することが求められています。

■ シミュレーション教育の特徴

講義や実習を経て、学生は知識と技術を獲得し、病棟での臨床実習や外部の医療機関での実務実習に臨みますが、臨床現場を再現した環境で事前にトレーニングを受けたり、実習後にその経験を振り返りながらトレースしたりすることで、より深い理解を得ることができます。臨床現場の実習は経験を積むうえで避けては通れない必須のカリキュラムですが、それに臨む学生の知識・技術・経験のレベルを底上げできるのがシミュレーション教育ということになると思います。

逆転の発想かもしれませんが、シミュレーション教育の特徴として、安全に失敗ができるということもあると思います。失敗をすることで振り返り、改善し、何度も繰り返しトレーニングしながらスキルを向上させる。実際の患者さまではできないことですが、シミュレーション教育では可能です。レアケースの状況を作り出すことも可能ですので、さまざまな経験を積み上げることが容易に可能となります。

医療安全の面からも、卒前・卒後教育、さらには生涯教育全般にわたって適切なシミュレーション教育が求められています。医療スタッフの知識・技術・経験のブラッシュアップにもシミュレーション教育は貢献しています。本学附属病院の医療安全部による研修、医師卒後臨床研修センターや高度看護研修センターの研修に関わることで、職員のスキルアップに貢献しています。



腰椎穿刺の様子



血圧測定の様子

病院移転後は、各医局の医師や病棟の看護師が研修として日々の医療行為の振り返り・ブラッシュアップをするためにシミュレーションセンターを利用する機会が増えました。実際に勤務している臨床の現場を再現し、手順や動線の確認をすることで、スキルアップだけではなく日々の業務改善につながるヒントを得ることもできていると考えています。

また、シミュレーション教育は多職種連携による実務実習にも有効であり、医・歯・薬・看護学部を有する岩手医科大学において非常に重要な教育とも言え、特色ある教育カリキュラムの作成が望まれます。

シミュレーター・教材の紹介

シミュレーションセンターでは、約 50 種類のシミュレーター・教材を管理しています。その中の一部をご紹介します。

■ 高度患者シミュレーター SimMan3G PLUS

様々な病態を再現できる高度患者シミュレーターの最新版を 2 セット導入しました。現時点では日本国内に 8 台しかないシミュレーターです。

従来機種も 2 セット所有しており、心肺蘇生や病棟急変対応、全身麻酔導入等のシミュレーションに活用していました。フィジカルアセスメントに加え、排尿や出血、瞳孔反射や発声もし、気管挿管や胸腔穿刺なども可能で、事前に病態をプログラムすることで、シミュレーション中に状態を悪化させたり改善させたりすることも可能です。

今回追加した 2 セットでは、感染症対応人材育成を考慮し、人工呼吸を接続して呼吸器系の病態のシミュレーションが可能な機能が新たに追加されています。



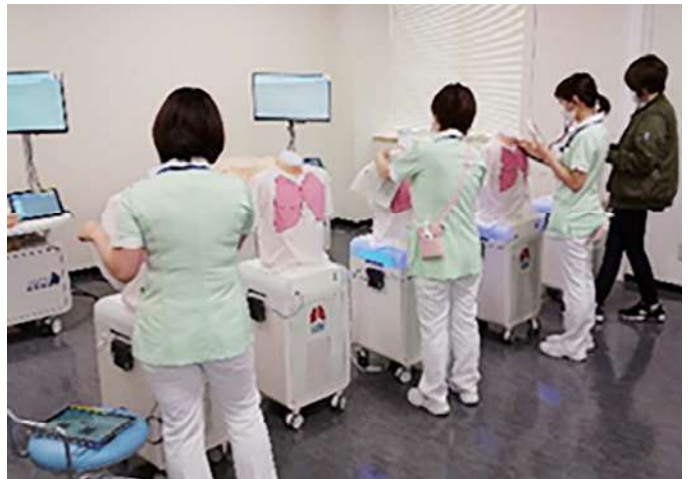
■ 呼吸音・心臓音聴診シミュレーター

心臓音や呼吸音を聴診するシミュレーターは、以前より複数台所有し運用してきましたが、購入から 10 年近くが経過し、老朽化が目立ってきたため、2021 年度に最新型のモデルに入れ替えを行いました。

- 心臓病患者シミュレーター イチロー II A …… 2 台
- 呼吸音聴診シミュレーター ラング II …… 5 台

それぞれ正常音と複数の異常音を聴診することが可能で、聴診箇所による音の違いも再現されています。

また、タブレット端末による操作は、直感的で簡単のため、指導する側も気軽に使用することができます。



■ 内視鏡 VR シミュレーター

高度なバーチャルリアリティ技術で内視鏡手術・検査をシミュレートすることができます。腹腔鏡のシミュレーターと気管支・上下消化器内視鏡シミュレーターをそれぞれ所有しています。

映像はコンピューターグラフィックにより再現された体内モデルとなりますが、操作する鉗子からは手ごたえがフィードバックされるため、リアルな操作体験をすることができます。複数のシナリオが準備されており、様々な検査や手術のシミュレーションが可能です。



コロナ禍における役割について

新型コロナウイルスを含む感染症対応において、院内感染を防止しながら持続的に高度医療を提供することが強く求められています。これは感染症部門に留まらず、医療に従事するあらゆる職種において、感染症及び感染症医療に関する知識・スキルを向上させる必要があります。

政府は令和2年度第3次補正予算で文部科学省の感染症医療人材養成事業を採択し、本学はこの事業の補助金を受けることができました。本年度、これを元に設備の増強と学生のカリキュラムや職員研修の補強を図っています。

本学の学生には今までも感染症に関する一般的な概要についてなどの教育を行っていましたが、今後は感染症の診断や特性などを踏まえた診療や感染制御に関する実践的な教育プログラムを新たに導入し、感染症に関する高度な知識を身に付けた医療人材養成を行っていこうと取り組んでいます。また、医療スタッフ向けの実践的なトレーニングも開始する予定です。

この取り組みでは、感染症蔓延防止の観点から、シミュレーターを使用したトレーニングが主となります。新たなシミュレーターや医療機器・教材といったハード面の整備、新しいカリキュラム・研修プログラムの作成といったソフト面での整備というところで、シミュレーションセンターの関わりが非常に大きなウエイトを占めています。

■ シミュレーター操作説明会

新たに導入したSimMan3G PLUSの操作説明会を2月9日（水）に開催しました。感染症対策としてメーカーの講師含めオンライン参加とし、シミュレーターの説明や操作方法について参加者に動画配信しました。

基本的な機器の接続、起動方法、操作方法に加え、今回のシミュレーターの目玉である人工呼吸器を接続しての操作方法やデモンストレーションを実施しました。

説明会に参加した副センター長の相澤特任講師は、「今までシミュレーターでは人工呼吸器による患者の病態が再現できていなかったが、このシミュレーターを用いることで、初歩的な人工呼吸器による患者管理シミュレーションだけでなく、様々な呼吸器系のシミュレーションを実施できるようになるのではないか」と期待を込めていました。



シミュレーションセンター長から

本学が開設した東北・北海道で最新最先端病院と、車輪の両輪となるべき学内パートナーが、シミュレーションセンターの位置づけであると考えています。つまり、様々な職種とレベルのシミュレーションセンター使用実績の向上が、病院内外での教育のドライビングフォースにも成り得ます。

患者さんのベッドサイドとシミュレーションセンターの緊密な連携が、これからの医学・医学教育の柱になると確信しています。

前シミュレーションセンター長の佐藤洋一先生がセンターの基盤整備にご尽力いただいた後を引き継ぎ、さらに発展させられるよう、Simulation to Bedside(STB)をキーワードとして、実績をあげてまいります。シミュレーションセンターの門戸は、職種を問わずいつでも開けておりますので、ご利用についてはご遠慮なくご相談ください。皆様からのご支援ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。



伊藤 智範 センター長
(医学教育学講座
地域医療学分野 教授)

(公財)日本医療機能評価機構から「認定基準を達成している病院」として認定されました

附属病院は、令和2年度に(公財)日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、書面調査および訪問審査の結果、1月4日(火)に「認定基準を達成している病院」として認定されました。

病院機能評価は、(公財)日本医療機能評価機構によって、中立的・科学的・専門的な見地から医療機関の役割に応じた機能が適切に発揮されているかを第三者的に評価されることで、医療の質向上に寄与する制度です。病院機能評価事業は1997年より開始され、2021年3月末時点で認定病院は2,112病院であり、その病床数はわが国の病床数の41.6%を占めています。

本学附属病院の認定期間は2022年1月4日から2027年1月3日の5年間で、この期間内は病院のパンフレットや名刺、広報活動用の媒体等に認定シンボルマークの使用が認められています。



女性アスリートサポートセミナーの講師を創剤学分野の杉山育美助教が務めました

2月4日(金)、岩手県主催の女性アスリートサポートセミナーがいわて県民情報交流センター・アイーナで開催され、杉山助教が「月経を受け入れたコンディショニングを目指して」というタイトルで講演しました。

杉山助教は、スポーツファーマシストであるとともにアスリートフードマイスター等の資格を有し、県内の指導者、トレーナー、保護者に対し講演しました。本講演では、無月経では強くなれないこと、月経困難症は子宮内膜症のリスクが高いこと、健康な体で取り組むことがアスリートとして最も重要であることを述べるとともに、ピルとの付き合い方を提案しました。

講演後には多くの質問があり、女性アスリートが抱える問題の大きさを実感させるものでした。



女性アスリートサポートセミナーの講師を務める杉山助教

最終講義が行われました

3月7日(月)、大堀記念講堂において、3月31日付をもって定年退職される教授の最終講義が行われました。

聴講者は、各教授によるスライドや在職中のエピソードなどを交えた熱心な講義に耳を傾け、名残を惜しみました。講義終了後には、職員や学生から各教授に花束が贈呈され、惜しみない拍手が送られました。

「疫学研究からの学びと 予防医学発展への期待」

衛生学公衆衛生学講座

坂田 清美 教授



「重症肝炎克服に向けた取り組み」

内科学講座消化器内科肝臓分野

滝川 康裕 教授



「より良い聴こえを目指して」

耳鼻咽喉科学講座

佐藤 宏昭 教授



「希少がんとの出会い」

頭頸部外科学科

志賀 清人 教授



「岩手ドクターヘリ 10年の軌跡」

救急・災害・総合医学講座救急医学分野

井上 義博 教授



「口腔細菌の功罪 —生体の恒常性と病原性への関与—」

微生物学講座分子微生物学分野

佐々木 実 教授



左から：坂田教授、滝川教授、佐藤教授、志賀教授、井上教授、佐々木教授

看護学部宣誓式が挙行されました

3月9日（水）、大堀記念講堂において、看護学部宣誓式が挙行されました。

この式は本来、3年次の領域別実習前に看護職者を目指す者としての誓いを立てることを目的に行われますが、看護学部第2期生（令和3年度第4学年）は、新型コロナウイルス感染症の影響で開催が延期となっておりました。そのため、今回は、学部での4年間の学びや国家試験を終えた学生一人ひとりが、就職・進学等、看護の道に進む決意を新たにすることを目的として卒業直前に開催しました。

式では、学生を代表して川畑樹音さんが「どのような状況下でも患者さんやご家族に寄り添い、医療者としての自覚と責任を持ち、学び続けることを誓います」と力強く宣誓しました。



学生代表宣誓 川畑樹音さん

令和4年度一般入学試験・大学入学共通テスト利用入学試験が行われました

令和4年度岩手医科大学入学試験は新型コロナウイルス感染症対策を講じ、以下の通り行われました。

入試区分	日程	志願者数
医学部一般・地域枠C（一次）	1月19日（水）	2199名
医学部一般・地域枠C（二次）	1月28日（金） 1月29日（土）	
歯学部一般・共通テスト利用（前期）	2月4日（金）	68名
薬学部一般・共通テスト利用（前期）	2月4日（金）	94名
看護学部一般（前期）	2月7日（月）	153名
歯学部一般・共通テスト利用（後期）	3月14日（月）	18名
薬学部一般・共通テスト利用（後期）	3月14日（月）	9名
看護学部一般（後期）	3月14日（月）	21名



医学部一般一次試験（本学会場）

卒業式が挙行されました

令和3年度岩手医科大学卒業式は、3月11日（金）に大堀記念講堂において挙行されました。新型コロナウイルス感染防止のため、出席者を限定し、卒業生は各研究科・学部の代表者、教員は教授のみとしました。参加が叶わなかった卒業生と保護者のため、ライブ配信されました。

令和3年度岩手医科大学医療専門学校の卒業式は、3月8日（火）に上ノ橋校舎で挙行されました。祝辞等は書面により配布され、保護者の出席をご遠慮いただく等、最小限の人数で執り行われました。

昨年度に続き、今年度も規模縮小の開催となりましたが、卒業生は母校の思い出と新天地への期待を胸に、医療人として決意を新たにしました。

岩手医科大学卒業式

令和3年度岩手医科大学卒業生			
医学研究科博士課程	8名	医学部	128名
医学研究科修士課程	5名	歯学部	42名
歯学研究科博士課程	7名	薬学部	61名
薬学研究科博士課程	2名	看護学部	91名



卒業生代表宣誓

前列：看護学部 白澤里菜さん

後列左から：医学部 戸羽陸さん、歯学部 金森尚城さん、薬学部 早川瑛美子さん

岩手医科大学医療専門学校卒業式

令和3年度医療専門学校卒業生：32名



卒業生と関係教員・職員

外科学講座の鈴木 信 准教授が 日本内視鏡外科学会でカールストルツ賞を受賞しました



この度、第34回日本内視鏡外科学会総会（令和3年12月2日～4日：神戸市）におきまして、演題「年齢・膀胱容量が気膀胱下膀胱尿管新吻合術に与える影響」を発表し、大変名誉あるカールストルツ賞を受賞いたしました。カールストルツ賞とは、日本内視鏡外科学会にて1999年から設けられた制度で、内視鏡外科手術の発展のために優れた研究成果を発表した会員に与えられる賞です。今回が第23回目で外科学講座からは中嶋潤元助教、大塚幸喜准教授、新田浩幸教授に次いで4人目の受賞となります。

本演題の膀胱尿管逆流症に対する気膀胱下膀胱尿管新吻合術は診療ガイドラインに開放手術と同等の手術成績が記載されていますが、低膀胱容量でワーキングスペースが極端に狭くなる幼少児では、技術的難易度および合併症が増すため術者の技量に応じて行うように記載されています。私は2012年より小児の膀胱尿管逆流症に対して本術式を第一選択とし、手術手技安定のための工夫・改良を加えることで、安全性を保ちつつ、全年齢に本術式を施行してきました。今回の検討では、本術式における主要手技毎の所要時間比較で年齢による所要時間の相違は認めず、年齢や

体格は手術時間や合併症に影響を与えていないことが分かりました。このことから、年少児においても膀胱容量を最大限に活用し、気膀胱を維持するためのポート挿入や膀胱固定の工夫を行い、狭小空間における鉗子操作の習熟を図ることで、年少児においても遜色なく本術式が施行可能であることを報告しました。

岩手医科大学へ赴任後、本術式を含めた年少児への内視鏡手術をスムーズに導入できるように尽力していただいた佐々木章教授をはじめとする外科学講座の先生および手術室スタッフの皆様に、この場を借りまして心より御礼申し上げます。

（文責：外科学講座 准教授 鈴木 信）

放射線腫瘍学科の家子 義朗 助教が アジア・オセアニア医学物理学会連合で最優秀論文賞を受賞しました

アジア・オセアニア医学物理学会連合（AFOMP）より、論文「The impact of 4 DCT-ventilation imaging-guided proton therapy on stereotactic body radiotherapy for lung cancer」がBest Paper Award（最優秀論文賞）を受賞しました。この賞はアジア・オセアニアの医学物理雑誌において、最も優れた医学物理論文に贈られる賞です。尚、本論文は既に国内でもRadiological Physics and Technology誌より土井賞（優秀論文賞）を受賞しており、2つ目の受賞となります。

論文の内容は2021年7月号（536号）の大学報にも掲載させていただきましたが、肺癌の放射線治療計画法に関する研究報告です。放射線誘発性肺障害の低減を目的とし、4 D-CT（腫瘍の呼吸性移動評価のために治療計画時に取得）から作成した肺機能画像に基づく治療計画法について検証しました。近年、このような肺機能画像を用いた治療計画法が期待されておりますが、本論文のように、新たに検査を追加せずに治療ワークフロー内で撮影される4 D-CTから肺機能画像を作成する手法も注目されております。

表彰式・受賞講演は12月に開催されたアジア・オセアニア医学物理学会（AOCMP）にて行われました。Web形式でしたが、国際学会での表彰式や講演は大変貴重な経験となりました。今後も、最良の放射線治療を提供できるよう、診療と研究に励んで参りたいと思います。

（文責：放射線腫瘍学科 助教 家子 義朗）



表彰の栄誉

内科学講座消化器内科肝臓分野の阿部 弘昭 専攻医が 日本消化器病学会東北支部例会で最優秀演題賞を受賞しました

この度、第212回日本消化器病学会東北支部例会（令和4年2月4日：仙台市）において、演題『COVID-19ワクチン接種を契機に自己免疫性肝炎を発症した3症例の検討』を発表し、最優秀演題賞を受賞しました。

COVID-19 mRNAワクチン接種後、ワクチン接種に伴う免疫応答に関連すると考えられる心筋炎やギランバレー症候群などの副反応が報告されています。従って我々は、COVID-19 mRNAワクチンの副反応として発症する、自己免疫性の肝臓疾患である自己免疫性肝炎について注視していました。COVID-19 mRNAワクチン接種と自己免疫性肝炎発症との因果関係が強く疑われる患者3例の臨床的特徴について、今回の口頭発表と同時期に論文発表（Hepatology. 2022;75:759-60）をしています。同様の事例が世界各国から報告されている現状を受け、本邦においても疫学調査が開始されており、今後の新たな検討結果が期待されます。

今回の受賞は、滝川康裕教授をはじめとする内科学講座消化器内科肝臓分野の諸先生方のご指導の賜物です。この場をお借りし深く御礼を申し上げます。今回の賞を励みに、日々の診療と研究により一層精進して参ります。

（文責：内科学講座消化器内科肝臓分野 専攻医 阿部 弘昭）



大学院医学研究科博士課程4年生の横藤 壽 先生が 日本中毒学会東日本地方会で優秀演題賞を受賞しました



この度、横藤壽先生（救急・災害・総合医学講座救急医学分野）が、第35回日本中毒学会東日本地方会（2022年1月22日：福島市・Web開催）において優秀演題賞を受賞しました。演題は「岩手医科大学高度救命救急センターで治療した有機リン中毒62症例の検討」です。有機リン中毒の解毒剤としてアトロピンとヨウ化プラリドキシム（PAM）が知られています。このうちアトロピンには消化管運動抑制作用があるため、経口摂取による中毒治療の基本である消化管除染を妨げ、それにより中毒症状が遷延する可能性があることが報告されています。そこで当センターでは2000年以降、消化管除染を優先して治療するために腸洗浄を行うとともに、その間は極力アトロピンを投与しない方針で治療してきました。横藤先生は、当センター開設から現在までに治療した有機リン中毒症例の詳細な解析を行い、現在の治療法の有効性を示しました。この場を借りて報告いたします。なお、本研究は横藤先生の大学院生としての研究テーマでもあります。

（文責：岩手県高度救命救急センター 特任准教授 藤野 靖久）

薬剤部の二瓶 哲 主任薬剤師が 日本医療薬学会年会で優秀演題賞を受賞しました

この度、第31回日本医療薬学会年会（令和3年10月9・10日：ライブ配信、10月15～11月30日：オンデマンド配信）におきまして、演題「VEGF阻害薬投与患者の蛋白尿発症に対する適正な血圧管理の臨床的意義に関する後方視的コホート研究」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。

今回は、VEGF阻害薬（ベバシズマブ、ラムシルマブ）を投与したがん患者516人を対象に代表的な副作用である蛋白尿の発症状況を後方視的に調べ、適正な血圧管理を行うことが蛋白尿発症の抑制に繋がるという結果を報告しました。VEGF阻害薬による蛋白尿発症の機序に着目し、また蛋白尿に対する予防法及び治療法の確立を目指して行ってきた研究が、このようにご評価いただけたことを大変嬉しく思っております。

発表に際しまして工藤賢三薬剤部長をはじめとする薬剤部員の先生方、内科学講座呼吸器内科分野の前門戸任教授、内科学講座腎・高血圧内科分野の旭浩一教授、外科学講座の佐々木章教授をはじめとする各医局員の先生方にご指導を賜りました。この場を借りまして深く御礼申し上げます。

（文責：薬剤部 主任薬剤師 二瓶 哲）



岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第7回目のご芳名紹介です。(令和3年12月1日～令和4年1月31日)

■ 法人・団体等 (37件)

<200,000>

株式会社 南部医理科 (岩手県紫波郡)
株式会社 メッツ (岩手県盛岡市)
レジットメディカル 株式会社 岩手支店 (岩手県紫波郡)

<100,000>

株式会社 ダスキン盛岡 (岩手県盛岡市)
株式会社 寿広 (岩手県盛岡市)
株式会社 アプト (岩手県盛岡市)
株式会社 岩電 (岩手県盛岡市)
株式会社 興和電設 (岩手県盛岡市)
岩館電気 株式会社 (岩手県盛岡市)
松栄商事 株式会社 (岩手県盛岡市)
PSP 株式会社 (東京都港区)
株式会社 双葉設備アンドサービス (岩手県盛岡市)
株式会社 大東環境科学 (岩手県紫波郡)
株式会社 シノテスト (東京都千代田区)
株式会社 朝日工業社 東北支店 (宮城県仙台市)
株式会社 平金商店 (岩手県盛岡市)
盛岡ターミナルビル 株式会社 (岩手県盛岡市)
永代印刷 株式会社 (岩手県盛岡市)
株式会社 モリレイ (岩手県紫波郡)

<50,000>

東北フードサービス 株式会社 (岩手県盛岡市)
株式会社 田清水産 (岩手県盛岡市)

<ご芳名のみ>

医療法人社団 ひらた皮フ科クリニック (北海道函館市)
株式会社 吉田測量設計 (岩手県盛岡市)
株式会社 佐々木組 (岩手県紫波郡)
有限会社 ホロニック・システムズ (岩手県紫波郡)
株式会社 木津屋本店 (岩手県盛岡市)
株式会社 教育広報社 (東京都墨田区)
株式会社 システムエイド (岩手県盛岡市)
株式会社 日本ドリコム (東京都中央区)
医療法人社団 嘉奉会 (富山県南砺市)
株式会社 トーセイメディカル (岩手県盛岡市)
共立医科器械 株式会社 (岩手県盛岡市)
丸木医科器械 株式会社 (宮城県仙台市)
ルートインジャパン 株式会社 (東京都品川区)
杜陵高速印刷 株式会社 (岩手県盛岡市)
医療法人 岡田小児科医院 (秋田県横手市)
医療法人社団 ヨシノデンタルクリニック (宮城県仙台市)

■ 個人 (99件)

<6,000,000>

金田 修身 (医14)

<5,000,000>

金田 眞理子 (医17)

<2,500,000>

水谷 剛 (父母)

<2,000,000>

林下 忠行 (医25)

<1,000,000>

谷藤 典子 (医47)
佐藤 成大 (名誉教授)
大久保 勇 (元教職員)

<500,000>

千葉 太郎 (医25)
西島 康之 (医9)
根本 薫 (医30)

<300,000>

間山 寿代 (教職員)

瀬川 文香 (医53)

<100,000>

山田 わか子 (医17)

大口 正樹 (医18)

菊池 隆 (歯25)

石川 洋子 (医18)

中居 賢司 (医23)

神谷 亮一 (医27)

塚原 充秋 (医21)

土肥 守 (医32)

金子 勝 (医27)

阿部 正隆 (名誉教授)

日野 忠臣 (医7)

豊田 実 (医47)

大久保 千津子 (歯35)

<50,000>

志田 杜人 (歯6)

満川 元貞 (医45)

奈良 政司 (一般)

奈良 悠紀子 (一般)

内記 恵 (歯10)

内記 和歌子 (医65)

齋藤 潔 (医19)

<30,000>

齋藤 聡 (歯12)

<20,000>

小林 智子 (父母)

<11,110>

杉山 浩隆 (医28)

<10,000>

和賀 浩幸 (歯16)

<ご芳名のみ>

佐々木 真理 (役員)

漆久保 潔 (医26)

鈴木 憲一 (医19)

西田 陽 (一般)

吉岡 邦浩（教職員）
 深澤 範子（歯5）
 伊藤 智範（教職員）
 谷藤 泰寛（医16）
 池田 理一郎（医26）
 関向 由美子（父母）
 吉田 彰英（歯25）
 波紫 秀厚（他）
 日下 純男（医14）
 及川 浩平（医45）
 八木 孝陸（医26）
 廣田 茂（他）
 新井 桂（歯14）
 川村 秀司（医35）
 長田 公子（歯13）
 高橋 暁子（教職員）
 村上 晶彦（医28）
 村上 晶子（歯13）
 渡辺 裕子（医35）
 熊谷 俊一（医25）
 小笠原 敏浩（医35）

村上 遥子（医63）
 遠藤 龍人（教職員）
 田中 良一（教職員）
 小原 賢一（歯25）
 庄司 慈美（歯15）
 西澤 永子（歯1）
 白岩 和香苗（医49）
 高瀬 光一（医27）
 桂 泰鴻（医21）
 平山 脩（歯1）
 増田 友之（名誉教授）
 小山 耕太郎（医29）
 小室 淳（医23）
 安部 彦満（医29）
 藤原 哲郎（名誉教授）
 及川 司（医22）
 池田 健一郎（他）
 佐藤 譲（他）
 小原 紀彰（医17）
 板倉 康太郎（医28）
 中村 元行（名誉教授）

小笠原 孝祐（医26）
 菅原 光孝（歯16）
 杉山 晶規（教職員）
 三浦 邦彦（医38）
 橋場 友幹（歯13）
 富永 國比古（医24）
 太田 稔（名誉教授）
 後藤 康文（役員）
 金村 清孝（歯25）
 荒井 康仁（医43）
 荒井 杏子（歯22）
 秋山 圭介（父母）
 土方 真吾（教職員）
 佐藤 方信（名誉教授）
 大澤 浩（医31）
 戸塚 盛雄（名誉教授）
 黒田 敬（医52）

区 分	申込件数	寄付金額（円）
圭 陵 会	248	113,947,220
在学生ご父母	163	43,610,000
役員・名誉教授	26	28,980,000
教 職 員	29	5,550,000
一 般	16	461,226,148
法 人・団 体	141	71,895,481
合 計	623	725,208,849

（令和2年9月1日～令和4年1月31日現在）

創立120周年記念事業募金

第43回目のご芳名紹介です。（令和3年12月1日～令和4年1月31日）

■ 法人・団体等（3件）

<1,000,000>

株式会社 高宮商店（岩手県盛岡市）

<ご芳名のみ>

CSⅠ株式会社（岩手県盛岡市）

医療法人 岡田小児科医院（秋田県横手市）

■ 個人（7件）

<1,000,000>

妹尾 佳平（医30・歯7）

<100,000>

藤井 謙（医27）

齋藤 潔（医19）

<ご芳名のみ>

金子 信一郎（歯3）

河村 篤（父母）

遠山 浩之（父母）

千葉 香（教職員）

区 分	申込件数	寄付金額（円）
圭 陵 会	1,100	657,115,089
在学生ご父母	930	543,622,000
役員・名誉教授	100	124,170,000
教 職 員	266	35,772,000
一 般	145	48,735,010
法 人・団 体	400	1,197,384,000
合 計	2,941	2,606,798,099

（平成26年6月1日～令和4年1月31日現在）

医師卒後臨床研修センターでは、研修指導体制の向上と指導医のモチベーションアップを目的とし、ベストティーチャーアンケートを実施しました。アンケートには、令和2年度臨床研修医23名（回収率74%）が回答し、①診療能力、②説明の上手さ、③指導に対する熱意、④研修意欲への刺激、⑤研修医とのコミュニケーションの5項目の評価基準から、院内の上級医・指導医58名が選出されました。このうち票の多かった医師6名を紹介します。

第3回となる今回は、菅重典助教（救急医学分野）と村上英恵助教（リハビリテーション医学講座）にお話を伺いました。

救急・災害・総合医学講座救急医学分野

菅 重典 助教



臨床研修医からの声

- 一人の医師として任せてもらえた。どんなときでも嫌な顔せず熱心に、時間がある限り指導してくれる。
- 内科から外科処置まで幅広く教えてくれる。話しやすい。
- 研修医である自分に主治医をやらせてくださり、敗血症の治療や基本的な管理等、丁寧に教えてくれる。

一臨床研修医を指導する際に心掛けていること

答えは一つではなく多岐にわたり、それらからより良い答えを導く方法を学ぶ事が大事だと思っています。最近、初等教育から導入されたプログラミング学習の理念に近いものですので、臨床研修医には担当医として治療する過程で様々な問題に直面させ、自分で修正や工夫をして解決する経験を積めるように心がけています。臨床研修医に問題点は提起しますが、最初から答えは教えないことがほとんどです。そうすることで、教科書だけではなく工夫や創造が身につくと思いますし、何より仕事を楽しめると思います。

一救急・集中治療医学で身につく知識、技術など

本学で運営している高度救命救急センターは、岩手県救急の最後の砦であります。北海道・東北で最初に高度認定を受けた歴史のある救急センターです。他の救命救急センターと違い自己完結型で様々な外傷や敗血症、多臓器不全の初期診療から手術、集中治療、急性期リハビリまで円滑かつ迅速に治療することが当センターの使命です。よって、単体の臓器を診るだけでは治療不可能で、生命の恒常性を維持するための気道・呼吸・循環・体液・栄養・電解質・酸塩基・内分泌代謝・消化管・凝固・代替臓器等々の横断的な診断・治療・管理と敗血症・多臓器不全・外傷治療戦略の新しく幅広い知識と技術が必要で、これらを身に付け実践することができます。また、それらを災害や病院前救護（ドクターヘリ等）でも活用できる経験を積みめます。

一研修医に向けてメッセージ

社会人としての自由と権利は、義務と責任を果たす者にしか付与されません。これは、人生を歩む上でのバランスをとる等価交換の真理と言えますので、選んだ職業に対して懸命に働き責務を果たし、同時に勉強する場と時間の自由を獲得するのがこの研修2年間だと思います。幅広く、かつ奥深く学習できるのは体力的にも脳機能的にも若いうちが良いですし、人生のうちで全力で働く2年間があってもいいと思います。そこに遠回りも無駄なことは何一つありません。すべてが、将来の仕事だけではなく人生の糧に繋がっていきます。しいては、物事に付加価値を作る創造性のあふれた医療人に育ち、仲間として一緒に働けることを楽しみにしています。



リハビリテーション医学講座

村上 英恵 助教

臨床研修医からの声

- 優しく、丁寧に、研修医目線で指導してくれる。
- リハビリテーション科として、一つの病気だけでなく全身状態や人となりなど、全人的な観点で診療されている。

一臨床研修医を指導する際に心掛けていること

4週間という短い期間ですが、当院で算定される疾患別リハビリテーションでは、脳血管、心大血管、ガン、運動器、呼吸器、廃用症候群リハビリテーションがあり、なるべく、まんべんなくいろんな症例を診てもらうようにしています。また、興味のある疾患や希望する診療科があれば、その症例を診てもらっています。

一リハビリテーション科で身につく知識、技術など

治療をして、元通りに治る患者さんもいる一方で、病気やけがでこれまでの生活に支障をきたす患者さんや介護する家族に負担がかかることがあります。疾病や外傷で低下した身体的・精神的機能を回復させ、障害を克服すること、活動を阻害している要因を明らかにし、その要因を取り除き、残存機能を強化し活動を育むことがリハビリテーション医学です。リハビリテーション治療には、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、摂食機能療法、高次脳機能訓練、装具療法、ボトックス療法等のほか、栄養管理、生活指導、環境調整等があり、多職種との関わりが多くそのチームの中でリーダーシップが求められます。また、他科との連携は必須であり、コミュニケーション能力も必要です。

一研修医に向けてメッセージ（女医の皆さんへ）

最近、女性医師や医学部に女性が増えてきたと感じます。ジェンダーレスという概念が広まってきましたが、筋力や体調等、男女の個体差があることは否めませんし、家事や育児に費やす時間等、仕事をする上で男性に劣る面もありますが、女性ならではの相手の些細な変化を察する能力やコミュニケーション能力を生かして行ってほしいです。医師としてのスキルを身に付けるのはもちろんですが、人としての様々な人生経験を積んで行ってほしいです。趣味、恋愛や結婚、出産、育児や子育て、家事や仕事の両立、親の介護等の経験を通じて、時には娘として、時には親として気持ちを同調することで患者さんやご家族の方の気持ちに寄り添うことに近づけるとと思います。「木を見て森を見ず」となるなかれ。診療においては、各科、臓器別に細分化されていますが、患者さんを診る上では、局所だけではなく、全身状態を把握しなければなりません。多岐にわたる症例もありますので、是非リハビリテーション医学科に研修に来ていただいて、心身機能の評価を学び、今後の診療に役立ててください。

1. 名誉教授の称号授与について

佐藤 宏昭（医学部耳鼻咽喉科学講座）
坂田 清美（統合基礎講座衛生学公衆衛生学講座）
井上 義博（医学部救急・災害・総合医学講座救急医学分野）
（称号授与年月日 2022年4月1日付）

2. 役職者の選任について

副学長（岩手県こころのケアセンター・発達医学担当） 酒井 明夫（再任）
副学長（歯学部改革担当） 三浦 廣行（再任）
医学部長 佐々木 真理（再任）
歯学部長 三浦 廣行（再任）

附属内丸メディカルセンター長 下沖 収（再任）
健康管理センター長 石垣 泰（再任）
（任期 酒井副学長は、2022年4月1日から2年間、三浦副学長、歯学部長は、同日から1年間、佐々木医学部長、下沖内丸メディカルセンター長、石垣健康管理センター長は、同日から3年間）

3. 職員の人事について

事務局長
山本 和博（現 法人事務部長）
（発令年月日 2022年4月1日付）

1. 役職者の選任について

学生副部長（薬学部） 西谷 直之（再任）
学生副部長（教養教育センター） 相澤 文恵（新任）
図書館長 古山 和道（新任）
図書館副館長 原田 英光（新任）
医歯薬総合研究所長 平 英一（再任）
総合情報センター長 田中 良一（再任）
総合情報センター副センター長 石垣 泰（再任）
リエゾンセンター長 吉岡 邦浩（再任）
キャリア支援センター長 工藤 賢三（新任）
岩手医科大学医療専門学校長 三浦 廣行（再任）
（任期 学生副部長（薬学部）、図書館長、図書館副館長、医歯薬総合研究所長、総合情報センター長、総合情報センター副センター長、リエゾンセンター長、キャリア支援センター長は、2022年4月1日から3年間、学生副部長（教養教育センター）は、同日から2年間、岩手医科大学医療専門学校長は、同日から1年間）

2. 教員の人事について

医学部臨床腫瘍学講座 特任教授
岩谷 岳（前 外科学講座 准教授）
医学部内科学講座循環器内科分野 准教授
石田 大（前 同分野 講師）
医学部病理診断学講座特任准教授
上杉 憲幸（前 同講座 講師）
（発令年月日 2022年3月1日付）
看護学部地域包括ケア講座 准教授
岩淵 光子（現 同講座 特任准教授）
教養教育センター化学科 准教授
東尾 浩典（現 同学科 講師）
医歯薬総合研究所生体情報解析部門 特任准教授
大桃 秀樹（現 同部門 講師）
（発令年月日 2022年4月1日付）

3. 職員の人事について

法人事務部長
寺館 武志（現 法人事務部次長（総務担当））
学務部長
佐々木 光章（現 学務部次長）
法人事務部次長（財務担当）
伊藤 努（現 法人事務部用度課総括課長）
学務部次長、兼ねて学事課総括課長
有馬 幹（現 学務部学事課総括課長）
学務部歯学部教務課総括課長
齊藤 旭（現 病院事務部病院企画課調達係長）
（発令年月日 2022年4月1日付）

4. 組織規程及び職員の定員に関する規程（教育職員、一般職員）の一部改正について

時代に即した効果的な教育・人材育成と組織運営並びに新専門医制度等への対応を図るため、内科学講座の消化器内科消化管分野と消化器内科肝臓分野を統合し、消化器内科分野に、耳鼻咽喉科学講座と頭頸部外科学科を統合し、耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座に、救急・災害・総合医学講座の救急医学分野、災害医学分野、総合診療医学分野を再編し、救急・災害医学講座、総合診療医学講座に改め、組織規程を一部改正すること、これに伴い当該講座・分野の講座定員及び運用定員を変更し、教育職員の定員に関する規程を一部改正すること、また、一般職員の定員に関する規程について、附属病院移転に伴う大幅な組織改編後の適正な定員管理及び就業規則等との整合を図るとともに全般的な見直しを行うため、一部改正することを承認した。

（施行年月日 2022年4月1日付）

5. 大学院学則の一部改正について

第3期機関別認証評価における大学院の各授業科目の成績評価基準に係る指摘への対応、また、課程を経ない者の学位授与に係る試験方法を現状に則した内容とするため、大学院学則を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2022年4月1日付）

お知らせ 組織改編について

令和4年4月1日から以下のとおり組織改編を行います。

変更後

●医学部の改編

内科学講座	消化器内科分野
耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	
救急・災害医学講座	
総合診療医学講座	

●事務局（病院事務部）の改編

病院企画課	病院経営管理係 調達係
病院情報管理課	病院情報係 医事対策・保険係

変更前

内科学講座	消化器内科消化管分野 消化器内科肝臓分野
耳鼻咽喉科学講座	
頭頸部外科学科	
救急・災害・総合医学講座	救急医学分野 災害医学分野 総合診療医学分野
病院企画課	病院経営管理係 病院情報係 調達係 医事対策・保険係

中央臨床検査部（検体検査・採血室）

中央臨床検査部は、検体検査、生理機能・超音波検査センター、病理検査があります。今回は検体検査部門について紹介します。検体検査部門は、尿一般検査、血液凝固検査、生化学検査、免疫血清検査、輸血検査、細菌検査、採血室、治験管理からなり、中央臨床検査部長の諏訪部章教授、柳本実技師長はじめとして臨床検査技師33名、採血室看護師5名、事務員2名で構成されています。

日常の検査業務の他に、栄養サポートチーム（NST）、糖尿病教室、治験管理センター、感染制御チーム（ICT）、呼吸ケアサポートチーム（RST）など積極的にチーム医療にも参加しています。さらに良質な臨床検査を提供するために、個人のスキルアップとして専門分野における認定資格の取

得などの研鑽を積んでおります。令和3年3月に臨床検査室の国際認証であるISO15189を取得いたしました。これからも精度の高い検査を患者さまに提供できるように日々努めてまいります。

（副技師長 山田 友紀）



CICU病棟（心臓疾患集中治療室）

CICUでは「患者の退院後の生活を見据え、QOLを高められるように専門性の高い看護を実践します」を部署理念に掲げ看護を実践しています。最先端の治療を受けている患者さんに対して、専門性の高い看護を実践するため、医師や専門・認定看護師、薬剤師、理学療法士などによる勉強会を開催しています。2～5年目看護師の教育プログラムでは、心臓カテーテル検査や心臓血管外科手術の見学を取り入れ、看護師の育成に取り組んでいます。患者さん・ご家族のニーズを捉えた継続的なケアの実践や、患者さん・ご家族の思いに寄り添う看護を大切にしています。多職種カンファレンスや倫理事例検討では、患者さんにとっての最善な医療や看護の検討を行い、看護師個々

の倫理感性の向上を図っています。集中治療室という特殊環境であるからこそ、やさしさや思いやりの心、倫理感を持ち患者が安心できる看護を提供していきたいと思います。

（主任看護師 長岡 友美）



岩手医科大学報編集委員

小川 彰	佐藤真結美
影山 雄太	工藤 静子
松政 正俊	塩山 亜紀
齋野 朝幸	及川 弘美
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木忠司
成田 欣弥	畠山 正充
西里 真澄	藤村 尚子
佐藤 仁	武藤千恵子
伊藤 奈央	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

コロナ禍での卒業式も3回目を数えました。年度末の恒例行事として荘厳な卒業式や華やかな謝恩会、所属研究室や部活等での送別会（追いコン）で卒業生たちを心ゆくまで祝福できた時代が懐かしい。それでも現状を受け入れ、遅しく巣立っていく卒業生の背中に、自らのノスタルジーを振り払い、新年度を迎えます。はるか西方で理不尽に人命が失われてゆく報道に人類が抱える矛盾と憤りを感じつつ、人を生（活）かす人材を育成する本学の使命の尊さを改めて実感しています。May the world be in peace.

（編集委員 白石 博久）

岩手医科大学報 第540号

発行年月日／令和4年3月31日

発行／学校法人岩手医科大学

編集委員長／小川 彰

編集／岩手医科大学報編集委員会

事務局／法人事務部 総務課

TEL. 019-651-5111（内線5452、5453）

FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷／河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp



岩手医科大学 岩手県高度救命救急センターの役割

高度救命救急センターとは

一般的な救命センターと違い、高度救命救急センターとは一般的な救急疾患以外に心肺停止や重症・多発外傷、重度四肢外傷、広範囲熱傷、中毒、特殊感染、重症敗血症や多臓器不全など、単科では治療・管理が難しい病態に対し、初期治療から手術、集中治療、急性期リハビリまで、一貫した迅速かつ円滑な医療を可能とする救急センターであります。つまり、複数の診療科が、それぞれ独自の治療法を無秩序に展開してはならず、治療戦略を立てて一貫して行うことが重要であります。当センターはその診療・教育・研究の役割を岩手県の主軸として担っております。

センターの活動

当センターの高度認定は、全国で4番目、北海道・東北で最初に認可を受けた歴史の深い施設です。自己完結型救命救急の体制を当初からとっており、スタッフは救急科15名（救急専門医が15名、集中治療専門医が5名、熱傷専門医が1名、中毒専門医が2名、外科系専門医が7名、内科系専門医が5名：重複あり）、救急専攻医4名、そして他の診療科から出向していただいている7名で運営しています。上記のような重症患者を中心に院内はもとより県内外からの紹介が多いことも特徴です。最近では敗血症や原因不明の多臓器不全治療・管理に加えVA-ECMO^{※1}、VV-ECMO^{※2}施行目的の院内紹介も多くなってまいりました。院内コードブルーでも循環器内科と協力し様々な急変病態に対し積極的に取り組んでいます。病院前救護としてドクターヘリを運営しており、300-400件/年出動し現場に向かい、外傷や心疾患、脳血管疾患などに対し初期治療までの時間と搬送時間短縮が可能となりました。また災害医学講座も併設しておりDMAT隊を3チーム保有し災害時（最近では2018北海道地震、2019熊本地震など）は出動し成果を上げています。



2016 岩手県北土砂災害時 DMAT 本部



ドクターヘリ現場活動



多臓器不全患者の ECMO 管理

※1 VA-ECMO：心臓の機能を補助する場合に使用し、静脈（Venous）から動脈（Artery）に血液を送る

※2 VV-ECMO：肺炎などで肺の機能を補助する場合に使用し、静脈（V）から静脈（V）に血液を送る

まとめ

とはいえ、様々な診療科やメディカルスタッフとの連携がとても重要なことには変わりなく、それにより、より良い医療が提供できると思います。ご協力のほどよろしくお願いいたします。今後の展開として、ドクターカー構想やECMOセンターの計画が持ち上がっており、引き続き岩手県の救急・集中治療の発展に貢献できればと思います。